

〔目的〕 前報において戦後沖縄の洋裁学校の変遷とその役割を報告したが、今回は平成3年時点での沖縄県下の洋裁学校における教育の現状を明らかにすることを目的とする。

〔方法〕 沖縄県下の洋裁学校の中から地域が片寄らないよう10校を選び、生徒189人と教師20人にアンケート調査を実施した。調査内容は生徒へは年齢、学歴、職業、選択コース、通う目的等であり、教師へは年齢、出身校、現在の中学校における被服教育についての感想、今後の洋裁学校の進むべき方向等である。

〔結果〕 ・平成3年5月時点で認可洋裁学校は10校に減少し、都市部に集中している。

・生徒の年齢層は「20～25才未満」が最も多く、次いで「30～40才未満」「40～59才」と続く。所属コースは「昼間コース」に通う者58%で、専業主婦やアルバイトなどの人が多く、「夜間コース」に通う者は26%で、フルタイム勤務者が多い。

・通う目的では、「趣味として技術を身につけたい」が5割を占め、「職業に結びつけたい」は3割強であった。

・教師の年齢層は40代が最も多く、次いで50代、70代、30代となる。全般に高齢化が目立つ。洋裁学校の役割についてはこれから小さくなると思う者が多く、今後の方向について「プロと趣味」の両方の養成をしていくべきだと思えるものが多かった。